地域と連携した防災訓練に係る提案

地震に強いまちにしよう！～自助・共助・公助の取組～
学校保護者が一体となって取り組む地震対策総合訓練を通して

◆　所属・提案者（◎代表者）

久喜市立久喜小学校	◎川島　尚之

ねらい

未曾有の大震災、東日本大震災から５年が経った。今年４月にも熊本地震によって甚大な被害を被り、我が国を襲う自然の猛威は、恐怖の記憶を風化させることを許してはくれない。2011 年 3 月 11 日、あの日私は体育の授業中で校庭にいた。突然轟音とともに激しく揺れだした校舎。あちこちから聞こえる悲鳴、鳴り響くサイレン。不安と恐怖で泣き出す子供たち。緊急で引渡しが行われたが、交通機関が麻痺し、保護者自身が自宅に帰れず、学校に取り残された児童は少なくなかった。

そんな子供たちの姿を見て「うちにおいで。」「うちで預かります。」と声をかけてくれた地域、保護者の方々。あの温かい言葉で、不安に押し潰されそうだった子どもの心は、どれだけ救われたことだろう。地域のつながりのありがたさ、共助の精神の大切さを改めて痛感した。

あの日の経験を通して、あの悲しみを二度と繰り返さない為に学校として、教員としてできることは無いだろうかと考え、「緊急時に主体的に判断・行動できる児童を育成すること」、「緊急時により強い絆で助け合える地域を作ること」をねらいとして、本実践を行った。

実践内容

（１）事前準備

４月　懇談会にて　※資料１

①災害時の地域のつながりを作ろう。～引き取りカード作成を通して～

４月当初の懇談会で、保護者に対して、「近隣の人と相談してもらい、保護者が迎えにこられない時に、代わりに児童を預かってくれる近隣の人の名前を引き取りカードに記載してください。」とお願いする。

②緊急時の学校の対応を把握しよう。

基本的には連絡メールで連絡するが、「震度５弱」以上の地震が発生した場合には、連絡が無くても引渡しを行うことを確認する。引渡しが行えない場合は、安全な人へ引渡しができるまで学校で児童を預かることを確認する。

４月中旬～下旬　※資料２

③我が家の危険を診断しよう。

～家庭で行うＤＩＧを通して～

４月中旬頃ワークシートを配布し、各家庭でＤＩＧに取り組んでいただく。

家庭で行う災害図上訓練手順

・「大地震発生！そのときどうする」を読む。
・自宅の中から一部屋を選んで、おおまかに間取り図を書く。
・書いた間取り図に震度７の地震が発生したときの状況を赤で記入する。
・そのような状況になった時の行動について、家族で話し合う。
・話し合った内容をワークシートに記入する。

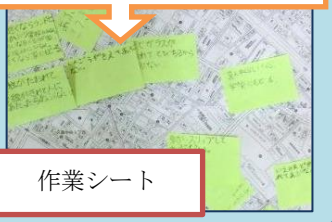
４月下旬　※資料３

④通学路の危険箇所を把握しよう。

登下校時、休日等に通学路上で予想される危険を調べておく

DIG の様子

通学班ごとに一枚の地図を囲んで活動します。ＰＴＡ地区役員さんが進行係になり、話し合いを進めていきます。児童と保護者が一緒になって、通学路の危険箇所やどう行動するのがより安全かについて話し合います。



作業シート

（２）訓練当日

５月上旬（地震対策総合訓練）　※資料４

⑤緊急時のより安全な行動を考えよう。～避難訓練を通して～
⑥より安心な引渡し方法を考えよう。～引渡し訓練を通して～
⑦通学路の防災マップを近隣同士で作ろう。～通学路ＤＩＧを通して～
⑧地域へ出よう。～近隣の人みんなで実地踏査～

訓練当日の流れ

	時　間	活　動　内　容	保　護　者
緊急連絡訓練・避難訓練	午後１時30分～	①それぞれの場所でのより安全な避難の仕方について話し合う。	午後１時～　緊急連絡訓練 ※家庭連絡メールで連絡 ※震度７の地震が発生したと想定して、連絡が無くても学校へ来る。
	午後１時40分～	①緊急地震速報着信。第１動作をとる。 ②地震到達。第１動作を続ける。 ③校庭に避難。第２動作をとる。 ④校庭で被害状況の把握をする。 ⑤第１動作についてクラスごとに話し合う。	
引き渡し訓練	午後２時05分～	①地区ごとの集合場所に移動する。 ②校長先生の話を聞く。 ③地区ごとに引き渡しを行う。 ④引き渡しを終えたら、児童と保護者一緒に自学年の昇降口から地区別活動場所へ移動する。	午後２時～　校庭に集合 ①地区担当教員から児童を引き取る。 ②児童とともに地区別活動場所へ移動する。
DIG	午後２時30分～	①地区別活動場所で放送を聞き、地震シミュレート動画を視聴する。 ②通学班ごとに、地区の地図をもとに地震があった際に危険な場所について話し合う。 ③そのような状況になったとき、どう行動するかを話し合う。 ④通学班ごとに話し合った内容を発表する。 ⑤話し合った内容をワークシートに記入する。	午後２時３０分～ ①児童とともに話し合いに参加する。 ※進行は地区役員が行う。
実地踏査	午後３時15分～	①校庭の地区集合場所に整列する。 ②地区委員・担当職員・保護者と一緒に下校しながら、話し合った内容を現地で確認する。	午後３時１５分～ ①児童とともに地区別の集合場所へ移動する。 ②児童とともに話し合った内容を現地で確認する。

実践時期・期間

事前４月上旬～４月下旬　　当日５月上旬

実践の成果や課題

【成果】
・下校時に地震が発生した際、下校班の児童が自分たちで近隣の広い駐車場に避難したことがあった。地域の方もこの話し合いに参加してくださった方だったらしく、児童が主体的に避難行動を取ったことに対してお褒めの電話をいただいた、という事例に見られるように、児童は確かに主体的に避難行動が取れるようになってきているし、近隣の方の間にも共助の精神が高まっている。
・保護者の感想の中にも、「地震時の行動について振り返る機会を与えていただきありがたい。」「家族の約束を作ることができた。」「地震が来たときに困ることがわかったので、準備しておきたいと思う。」「〇〇さんと緊急時にはお互いの子を預かることにした。」など、防災意識の涵養、地域の協力体制作りに成果を上げている。
【課題】
・児童と保護者だけでなく、地域住民をもっと巻き込んでいくことができると良い。
・この訓練を始めて４年目になるので、マンネリ化を感じる。避難所想定訓練等と隔年で行うようにする。

失敗しないための方策

・地区役員・地区担当教員等、進行される方用のマニュアルを用意してあげるといいです。　※資料５
・事前の活動をきちんと行ってください。（内容の①～④）

他校で導入するポイント

・通学班ごとに地区役員さんに進行していただくので、事前の共通理解・事前連絡が大切です。
・ワークシートや進行マニュアルを添付してあります！そのままお使いいただけます。
・震災がトラウマになっている児童もいるので、配慮が必要です。

セールスポイント

①学校外（家庭内・通学路等）での安全な判断・行動について訓練することができる。
②通学班ごとに活動するので、近隣の人同士の災害時の共通理解が図られ、共助の精神が高まる。
③学校・家庭が力を合わせて危機を乗り切ろうという意識が高まる。
④児童も保護者も災害時に主体的に判断・行動しようとする意識が高まる。

こうすればより高い効果が得られる方策など

・地域の方、市役所防災課、消防署等も一緒に活動できるとさらに災害に強いまちになります。（本校も検討中です。）
・避難所想定訓練等も行えると尚良いと思います。（本校は今年度実施しました！）

外部有識者からのコメント

　地域を巻き込んでの訓練であり、地域と一体となっての引き渡しも含めて、細かな計画がなされている点がよい。ただ、毎年実施しているとマンネリ化が心配なところであり、市の防災課や消防署等との連携、実施時期や時間帯を変える等が考えられる。
　保護者の理解を得ながらの「地震対策総合訓練」で、レディネス形成を周到にした上で訓練に入っている。訓練の中身を見ると、震災時の児童管理（引き渡しも含め）をどのように行うかが前面に出ており、子供たちの主体的に判断・行動する能力の育成を想定しにくいものがある（※補足資料１参照）。